

# 平成25年度農作物病害虫発生予察情報 注意報 第1号

平成25年 5月24日  
秋田県病害虫防除所

## イネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）の産卵が多い ～発生状況を確認して、被害初期に防除してください～

- 1 病害虫名：イネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）
- 2 発生作物：水稻
- 3 発生地域：全県
- 4 発生量：多い（第2世代）
- 5 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）
  - （1）5月22日に実施した県中央部の巡回調査では、すべてのほ場で本種の産卵が確認され、株当たり卵数は平均2.0個で、過去3か年と比較して多かった（表－1）。産卵株率は平均50%で、過去3か年と比較して高かった（表－2）。
  - （2）本種の被害許容水準を被害葉率15%（6月3半旬）とすると、これに相当する株当たり産卵数は1.5個、産卵株率は50%となることから、この水準を超えるほ場は多数あると推定される。
  - （3）本種は県内全域に分布するため、県中央部の調査結果から全県的に発生量が多いと予想される。今後、被害の発生が懸念されるため注意が必要である。
- 6 防除対策

ほ場をよく観察して本種の発生状況を確認する。卵は白色で長さ0.7mmの長楕円形、深植えや深水等により水面に浮いた葉身の葉脈に沿って産み付けられているため判別は容易である（図－1）。幼虫は乳白色のウジでふ化後ただちに葉肉内に潜入し、線状に食害痕を作る（図－2）。発生が多い場合は、葉が枯死する。

直播栽培は本種の加害を受けやすいため、特に注意する。

  - （1）平均気温が15℃の場合、卵は7日前後でふ化するので、幼虫による被害が確認されたらトレボン粒剤を10a当たり2～3kg水面施用するか、スミチオン乳剤2,500倍又はエルサン乳剤2,000倍のいずれかを10a当たり100リットル散布する。
  - （2）イネミズゾウムシやイネドロオイムシを対象に育苗箱施用剤を使用した場合は、本種にも登録がある薬剤があるので、今後の幼虫による被害の経過を観察する。被害が拡大する傾向が観察されたら（1）の方法で防除する。

7 資料

表一1 イネミギワバエの株当たり卵数年次比較(5月下旬調査)

地点名	卵数/株			
	2013年	2010年	2009年	2008年
五城目町上樋口	0.92	0.01	0.05	0
大瀧村方上	1.59	0.01	0.01	0
井川町小竹花	0.41	0	0	0
秋田市金足	2.41	0.01	0	—
秋田市上新城	0.85	0	0	0.03
秋田市下浜	4.67	0	0.02	0.04
由利本荘市及位	2.83	0	0	0.24
由利本荘市新上条	1.39	0	0	0.09
由利本荘市矢島町元町	3.14	0	0	—
平均	2.02	0.00	0.01	0.06

注1: 2011年、2012年は未調査

注2: —は未調査

表一2 イネミギワバエの産卵株率年次比較(5月下旬調査)

地点名	産卵株率(%)			
	2013年	2010年	2009年	2008年
五城目町上樋口	31	1	2	0
大瀧村方上	41	1	0	0
井川町小竹花	15	0	0	0
秋田市金足	60	1	0	—
秋田市上新城	28	0	0	2
秋田市下浜	61	0	2	0
由利本荘市及位	83	0	0	12
由利本荘市新上条	53	0	0	12
由利本荘市矢島町元町	74	0	0	—
平均	50	0.3	0.4	3.7

注1: 2011年、2012年は未調査

注2: —は未調査



図一1 イネミギワバエの卵



図一2 イネミギワバエ幼虫による食害痕

【 問い合わせ先 】

秋田県病害虫防除所                      TEL 018-860-3421  
 秋田県農業試験場                        TEL 018-881-3327  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>